

大阪大学  
THE UNIVERSITY OF OSAKA

大阪大学歯学会  
The Osaka University Dental Society

# NEWSLETTER

June, 2025 | No.32



大阪大学  
THE UNIVERSITY OF OSAKA

大阪大学大学院歯学研究科・歯学部  
School / Graduate School of Dentistry, The University of Osaka

# NEWSLETTER

No.11  
June, 2025



初代歯学部長  
司馬繁実先生の  
レリーフ  
(歯学部玄関前)

## 令和6年度 大阪大学歯学部弓倉学術賞・弓倉奨励賞

大阪大学歯学部弓倉学術賞、弓倉奨励賞は、歯科医学領域において優れた業績を挙げた本学歯学研究科・歯学部附属病院の教員に対して、大阪大学弓倉奨学会から授与される賞です。

大阪大学歯学会では、これらを受賞された方に例会での講演を依頼するとともに、大阪大学歯学雑誌への総説論文の執筆をお願いしています。令和6年度の弓倉学術賞は、犬伏俊博先生(矯正科)と、大川玲奈先生(小児歯科学講座)、弓倉奨励賞は、豆野智昭先生(有床義歯補綴学・高齢者歯科学講座)と、大継将寿先生(小児歯科学講座)に授与されました。

### 矯正科 犬伏 俊博

研究論文名:The cell surface hyaluronidase TMEM2 plays an essential role in mouse neural crest cell development and survival. PLoS Genetics. 18 (7):e1009765. 2022.

この度は、大阪大学歯学会弓倉学術賞を賜り、心より光栄に存じます。本学の学生時代から目標としておりました本賞を受賞できたのも、ひとえに諸先生方の温かいご指導とご支援の賜物と深く感謝申し上げます。

口唇口蓋裂の基礎研究および臨床研究を通じて、少しでも診断や治療に役立つトランスレーショナルな研究を目指し、今後も歯科医学・歯科医療の発展に貢献できるよう、引き続き精進してまいり所存です。何卒、今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願ひ申し上げます



犬伏先生・弓倉学術賞

### 小児歯科学講座 大川 玲奈

研究論文名:Evaluation of alveolar bone hypomineralization in pediatric hypophosphatasia usingorthopantomography. Scientific Reports. 12 (1):1211. 2022.

この度は、研究論文「パノラマエックス線写真を用いた小児低ホスファターゼ症における歯槽骨石灰化不全の評価」に対し本賞を賜り、大変光栄に存じます。本研究の遂行に当たり、ご指導いただきました仲野和彦教授、広島大学歯科放射線科の柿本直也教授に心より御礼申し上げます。本研究をさらに発展させ、低ホスファターゼ症のみならず、骨系統疾患の患者さんのよりよい歯科的対応法の確立へと繋げていきたいと思ひます。



大川先生・弓倉学術賞

### 有床義歯補綴学・高齢者歯科学講座 豆野 智昭

研究論文名:Association between posterior occlusal support and tooth loss in a population-based cohort: The OHSAKA study. Journal of Dentistry. 148:105144. 2024.

この度は、令和6年度弓倉奨励賞を賜り、大変光栄に存じます。ご選考くださった先生方ならびに歯学会の皆様、心より御礼申し上げます。受賞研究『臼歯部咬合支持と歯の喪失との関連についての大規模コホート研究』は、大規模な縦断調査を通じて、臼歯部咬合支持の低下が歯の喪失リスクを高めることを明らかにしました。この栄誉を胸に、高齢者の口腔健康維持に貢献できるよう、今後も研究活動に精進してまいります。



豆野先生・弓倉奨励賞

### 小児歯科学講座 大継 将寿

研究論文名:Clinical characteristics of children and guardians possessing CBP-positive Streptococcus mutans strains: A cross-sectional study. Scientific Reports. 12 (1):17510. 2022.

この度は、令和6年度大阪大学歯学部弓倉奨励賞をいただき、大変光栄に存じます。歯学会関係者の先生方に深く感謝申し上げます。う蝕の主要な病原細菌である Streptococcus mutans のうち、菌体表層にコラーゲン結合タンパクを産生している CBP 陽性株は全身の様々な疾患の病原性に関与することが報告されています。本研究では、乳幼児期の授乳習慣が CBP 陽性株の口腔内への定着に関与する重要な因子の一つであることが示唆されました。本研究を遂行するにあたり、ご指導を賜りました仲野和彦教授をはじめ、小児歯科学講座の皆様、厚く御礼申し上げます。



大継先生・弓倉奨励賞

## 「世界トップの歯学研究科・歯学部」を目指して

2025年4月1日付で、大阪大学大学院歯学研究科長・歯学部長を拝命いたしました。私は、1990年に大阪大学歯学部に入學して以来、30年以上にわたりずっとこの歯学部の建物で過ごしてきました。その間、大学院重点化(2000年)や講座の再編(2023年)などを経験するとともに、E棟F棟の竣工(2006年)やC棟D棟の改修(2023年)など歯学研究科・歯学部の変化を間近で見してきました。先輩の先生方の長年にわたるたゆまぬ努力によって、今の歯学研究科・歯学部があることを実感しています。昨年には、世界大学ランキングの1つである上海交通大学ランキングにおいて、歯科・口腔科学分野で世界9位(日本1位)の評価を得ました。このように、大阪大学歯学研究科・歯学部は、世界を代表する歯科・口腔科学の機関として揺るぎない存在であることが広く認められていると思ひます。

これまでに、先輩の先生方から「大阪大学歯学研究科・歯学部は、常に世界トップを目指していかなければならない」ということを繰り返し聞いてきました。今後、さらに高みを目指していくためには、構成員が一丸となって生き生きと研究・教育・臨床に取り組める環境整備が重要になってくると思ひます。特に、これからの10年、20年先を見据えた時に、老朽化している施設や設備の整備が喫緊の課題であることを意識しています。昨今、様々なインフラの老朽化によるトラブルが社会問題になっていますが、私たちの研究教育環境に対して、このような影響が生じる事態にならないように最大限の配慮が必要であると考えています。財源の確保等の問題で簡単に解決できるものではありませんが、輝かしい未来の実現を意識しながら、知恵を振り絞って前に進めていきたいと考えています。

人口減少時代に突入した昨今、歯学研究科・歯学部の研究・教育活動においても、様々な工夫が必要とされてきていることを実感しています。今後、一人ひとりの負担が益々増えてくるのが想定されますが、世界トップを目指すためには、持続性のあるシステム作りが必要になってくると思ひます。これまでに当たり前に取り組んできたこと対



して、いかに効率的に行うかを再考する時代がきていると感じています。研究・教育においても、これまでの講座単位の活動から、関連分野の横のつながりを意識したコラボレーション体制の構築が重要になってくるのではないのでしょうか。様々なアプローチを用いることで、人と人とのつながりを創出していくことのできる体制づくりを目指していきたいと思います。「世界トップの歯学研究科・歯学部」を実現するために、お力添えの程どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

(大阪大学大学院歯学研究科長・歯学部長 仲野和彦)

### CONTENTS

- 「世界トップの歯学研究科・歯学部」を目指して..... 1
- 社会学共創..... 2
- 産学連携..... 2
- 学部関連..... 2
- 最終講義..... 3
- 理事・副学長就任のご挨拶..... 3
- 学部学生の活動..... 3
- 大阪大学歯学会ニュースレター..... 4

大阪大学大学院歯学研究科・歯学部  
ニュースレターNo.11

大阪大学歯学会ニュースレターNo.32

2025年6月30日発行  
編集・発行 〒565-0871 大阪府吹田市山田丘1-8  
大阪大学大学院歯学研究科・歯学部 ニュースレターWG(久保庭、波多、藤原、前歯、高岡、鋸屋、室谷、岩山、広瀬)  
総務課庶務係 TEL 06-6879-2831 HPアドレス: https://www.dent.osaka-u.ac.jp  
大阪大学歯学会  
事務局 TEL 06-6875-8300(内線2044) HPアドレス: https://ouds.dent.osaka-u.ac.jp  
開室時間: 火・木(9:00~16:00)

## 社会学共創

### 大阪・関西万博出展 「AI デンタルチェアーの開発」

オーラルデータサイエンス共同研究部門は、歯科医療機器の製造・販売・流通大手であるモリタグループの出資により設立された、当院初の共同研究部門です。私たちが取り組む研究のひとつに、AI デンタルチェアーユニットの

開発があります。これは、診療中の映像やチェアーユニットの操作データから診療内容などを予測し、術者に適切なサポートを提供することで、歯科医師と患者双方の利便性と安全性の向上を目指す取り組みです。

2025年4月13日から開催されている大阪・関西万博には、日本歯科医学会が共創パートナーとして参加しており、6月26日13時から15時に「2040年への歯科イノベーションロードマップー未来の口腔医療 その現在地ー」と題するシンポジウムが開催されます。その中で取り上げられる9つのテーマのひとつとして、私たちのAI デンタルチェアーユニットが選出されました。当日は、口腔医療情報部の野崎一徳准教授が登壇し、私たちの研究に込めた哲学についてお話しいたします。

(大阪大学 歯学部附属病院 オーラルデータサイエンス共同研究部門 岡 真太郎)



## 産学連携

### 未来の口腔ケアを変える革新技術：除菌消臭成分 MA-T® の可能性 ～内閣総理大臣賞受賞からオリンピック・万博へ広がる日本発のイノベーション～

MA-T® (Matching Transformation System®) は、革新的な酸化制御技術に基づく除菌消臭成分で、通常は水に近い状態から必要な時にだけ水性ラジカルを生成する安全性と即効性を兼ね備えています。大阪大学と企業の共同研究により、口腔ケアジェルとして製品化され、う蝕・歯周病関連菌、カンジダ菌等や口臭への高い効果が確認されました。新型コロナウイルスやインフルエンザを短時間で不活化する能力も論文で報告され、感染対策にも貢献してきました。医療・介護の現場での活用が広がり、2024年には、MA-T® はオープンイノベーション大賞の最優秀賞：内閣総理大臣賞を受賞しました。航空機や災害支援、動物医療にも応用され、2025年大阪・関西万博では MA-T® 製品が展示されています。日本発・大阪大学発の研究技術が、健康長寿を目指して口腔ケアと環境ケアの未来を切り拓きます。(顎口腔機能治療学講座 阪井 丘芳)



2025年大阪・関西万博の大阪ヘルスケアパビリオン2階で阪井教授の開発された MA-T® 含有口腔ケアジェル(動物用)が展示されています。

## 学部関連

### 研究力で世界第9位にランクイン！

Shanghai Ranking Consultancy が発表した2024年版「Global Ranking of Academic Subjects」において、大阪大学はDentistry & Oral Sciences (歯学・口腔科学)分野で世界第9位にランクインしました。本ランキングは

各分野の特性に応じ、研究成果、影響力、国際連携などを総合的に評価するもので、大阪大学歯学研究科のこれまでの顕著な研究実績や受賞歴が高く評価されました。

(予防歯科学講座 久保庭 雅恵)

## 最終講義

### 生化学講座 西村 理行教授の最終講義

平成24年より生化学講座教授としてご尽力された西村教授がご退任されるにあたり、令和7年3月6日に「骨生物学に魅せられ、挑み、未来を託す」と題した最終講義が執り行われました。ご講義においては、長年にわたる骨代謝研究の成果のみならず、これまでの人材育成や歯科医学研究の発展への取り組みについてもご講述されました。西村教授の1時間半にわたるご講義は多くの聴衆を深く魅了するとともに、歯学研究科の未来を担う後輩たちに熱いメッセージを伝えるものとなりました。大変貴重な講義をしてくださった西村教授に感謝すると共に、先生のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。

(生化学講座 波多賢二)



西村 理行教授

### 歯学教育開発センター 長島 正教授の最終講義

平成20年より歯学教育開発センター(兼 総合歯科学講座)教授をお務めになった長島 正先生のご退任にあたり、令和7年2月20日に最終講義「学び続けた30年」が開催されました。そのご講義のキーワードは臨床教育で、補綴領域の研究に始まって学生・研修医の臨床教育を支える指導歯科医の育成や歯科臨床教育システムの構築へと至った歩みは、振り返るとその全てが学びであったことを感慨深く語られるとともに、これまでに各所でご協力いただいた教員・職員の方々に、深い感謝の意を表されました。

(総合歯科学講座 野崎剛徳)



長島 正教授

## 理事・副学長就任のご挨拶

### 林 美加子先生 大阪大学理事・副学長就任のご挨拶

2025年4月1日付けで大阪大学 理事・副学長を拝命いたしました林 美加子です。大学本部ではグローバル連携およびダイバーシティ&インクルージョンを担当致します。熊ノ郷 淳総長による新執行部は、阪大の基本理念である「Live Locally, Grow Globally」を大切にして「革新創造のために生まれ変わる」をモットーに邁進してまいります。歯学研究科からは、歯科保存学講座の先輩である恵比須繁之先生に続く2人目の理事・副学長として、本部と研

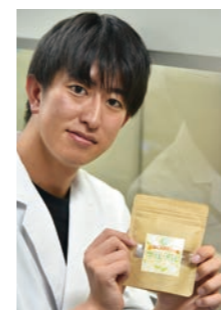
究科の架け橋となるべく一意専心に努めて参る所存です。なお、歯学研究科での活動も兼任教授として継続いたします。歯学研究科および歯学会の皆様には、変わらぬご支援・ご鞭撻を賜りますよう、何卒宜しくお願い申し上げます。



林 美加子理事・副学長

## 学部学生の活動

### 歯にも体にもやさしいキャラメル「アルメル」



大学の講義でむし歯の原因になりにくい糖について学んだ際に興味をもち、様々な文献を調べた際に見つけたのが、希少糖の一種であるアルロースでした。アルロースはむし歯になりにくいだけでなく、0kcalであり血糖値の上昇を抑えるなどの特性があります。しかし、一般の認知度は低く、歯学部生として、歯に

対しても体に対して良い特徴をもつアルメルを一般の方々にもっと知ってほしいという思いで、キャラメルの開発を始めました。クラウドファンディングにも挑戦し、多くの方々にご協力をいただくことで「歯にも体にもやさしいキャラメル『アルメル』」を商品化することができました。今後は、アルメルをより多くの方々に食べていただくことが目標です。この活動によって、一般の方々がむし歯予防に少しでも興味を持っていただければ幸いです。(歯学部5年生 佐々木 大誠)